

太宰府 観光協会

<http://www.dazaifu.org/>



太宰府市（だざいふし）は、福岡県の中部に位置する観光都市です。

その歴史は長く、九州地区の統治組織「大宰府（※）」が置かれ、671年『日本書紀』に「大宰府」という名前が確認されています。太宰府市には「学問の神」と崇められる菅原道真公を祀った太宰府天満宮などの史跡が多く、太宰府天満宮には毎年受験生をはじめとした参拝客が訪れています（2007年度統計では701万人）。

919年（延喜19年）、左大臣藤原仲平が勅によって社殿造営を行いました。数度の炎上を経た1591年（天正19年）に小早川隆景が再建します。五間社流造り、檜皮葺で、正面には唐破風状の向拝が付く、桃山時代の豪華華麗な様式で、右には飛梅、左には皇后梅が配されています。現在国の重要文化財として指定されています。

右に配される飛梅は、大宰府へ左遷された際に菅公を慕って一夜のうちに京から空を駆けてきたという伝承をもつご神木で、千年以上の時を経た今も毎年その清香の華を咲かせます。

飛び梅ほか6000本も植えられている梅をはじめ、大樟や花菖蒲など、菅公を祀る境内は豊かな緑と花に包まれ、四季ごとに美しく彩られます。



清らかな誠心で今も人々の尊崇を集める天神様

太宰府天満宮の祭神である菅原道真公は、当代一流の学者であり、優れた政治家でもありました。その生涯は国家と天皇家のために命をかけ栄達を極めた一方で、57歳の時、時の左大臣藤原時平の讒言により大宰権帥に左遷となります。大宰府下向の跡は配所であった榎寺から一歩も出ることなく、約2年後、無実の罪が晴れることなく59歳で逝去しました。後に時平の讒言を知った朝廷は、菅公の名誉挽回に努め、正一位太政大臣を追贈。菅公は天満大自在天神として、人々の尊崇を集めるようになっていったのです。



心字池・太鼓橋
漢字の「心」の字を象った池に掛かる御神橋三橋は、手前から過去・現在・未来を表し、三世一念の仏教思想を残した物と伝わります。この橋を渡ると心身ともに清められるとも謂われています。



楼門
重層の入母屋造り、檜皮葺の二重門。全体は朱塗りされ、堂々たる風格にあふれた佇まいが見事です。慶長年間（1596～1615年）に石田三成が再興しましたが明治時代に焼失、1914年に再建されました。



志賀社
精巧なつくりと変化のある屋根を持つ



楓社
夫婦円満、安産、子宝の守護神



絵馬堂
九州に残る最大・最古の絵馬堂

太宰府天満宮について

919年（延喜19年）、左大臣藤原仲平が勅によって社殿造営を行いました。数度の炎上を経た1591年（天正19年）に小早川隆景が再建します。五間社流造り、檜皮葺で、正面には唐破風状の向拝が付く、桃山時代の豪壮華麗な様式で、右には飛梅、左には皇后梅が配されています。現在国の重要文化財として指定されています。

右に配される飛梅は、大宰府へ左遷された際に菅公を慕って一夜のうちに京から空を駆けてきたという伝承をもつご神木で、千年以上の時を経た今も毎年その清香の華を咲かせます。

飛び梅ほか6000本も植えられている梅をはじめ、大樟や花菖蒲など、菅公を祀る境内は豊かな緑と花に包まれ、四季ごとに美しく彩られます。